

オンライン大学におけるメディア授業を中心とした 通信教育の概要と学習者の動向

The Outline of Distance Learning on Media Class and the Trend of the Learner at Online University

中村 宏^{*1}, 森 佳奈枝^{*1}, 加藤 泰久^{*1}

Hiroshi NAKAMURA^{*1}, Kanae MORI^{*1}, Yasuhisa KATO^{*1}

^{*1}東京通信大学 メディア教育支援センター

^{*1} Media Education Research Center, Tokyo Online University

Email: nakamura.hiroshi@internet.ac.jp

あらまし：高等教育の教場として通信教育のニーズは年々高まっている。近年の ICT 環境の整備を受け、通信教育も大人数の学習者を対象に、多様かつ個々の要望に応じた教育、更にはオンラインで学位の取得も可能になった。本稿では東京通信大学における通信教育、特に配信期間内にオンデマンドで受講可能な映像講義の構成と学習支援体制、初年度第 1 学期における学生の履修と学習の動向について述べ、今後の課題と展望について考察する。

キーワード：映像教材、eラーニング、MOOC、EdTech、Instructional Design

1. はじめに

『高等教育機関等における ICT の利活用に関する調査研究』では、教育環境における ICT の利活用の現状は、先進諸国と比較し、我が国の高等教育における ICT の教育的な利活用が抜本的に遅れていると指摘されている⁽¹⁾。しかし近年の ICT 環境の整備を受け、通信教育も大人数の学習者を対象に、多様かつ個々の要望に応じた教育、更にはオンラインで学位の取得も可能になってきている。

本稿では東京通信大学における通信教育、特に配信期間内にオンデマンドで受講可能な映像講義の構成と学習支援体制、初年度第 1 学期における学生の履修と学習の動向について述べ、今後の課題と展望について考察する。

2. 大学通信教育の変遷

大学通信教育は、昭和 22 年に学校教育法によって制度化されてから、向学心を持ちながらも、地理的、時間的制約などがあって、その実現に困難を伴う人たちの期待に応えられる正規の大学教育課程として実施されている。現在、44 大学、27 大学院、11 短期大学が門戸を開放しており、全国でおよそ 24 万人がそれぞれの学習動機に合わせて学んでいる⁽²⁾。

大学通信教育の学習方法は「印刷教材等による授業」「面接授業（スクーリング）」「放送授業」「メディアを利用して行う授業」と規定され、授業のほか学習指導も行われる。古くは郵便による通信を用いていたが、IT インフラの整備に伴い、インターネットを活用できるようになり、スクーリングの代替として、動画配信での講義や双方向通信でのディスカッション、専用ソフトウェアを用いた演習や試験を実施する、eラーニングによる「オンライン授業」での通信教育を行なう大学が増加している。

また通信技術の進歩は、通信教育で学べる学問領

域の拡充にも寄与している。従来では人文科学系・社会科学系などの文科系の分野が中心だったが、近年では情報科学関係科目や自然科学関係科目、健康福祉学、社会福祉学などの専攻も増えてきている。

単位認定に関しても ICT による変遷がある。従来はレポートの送付やスクーリングの出席を受験の条件とし、幾つかの試験会場で行われる単位修得試験に合格して、その科目の単位が得られた。近年では科目によっては、スクーリングの代わりに動画配信講義の視聴とオンライン上での小テストや掲示板での発言等をもって出席とし、単位修得試験も試験会場へ赴かずオンライン上での受験が可能となった。

大学通信教育は通学教育と比べて、学習者が孤独な学習に陥りがちで、学習プランの構築や学習意欲の維持に、学習者個々が問題を抱えることがある。大学は積極的に学習指導や相談を行なうが、その方法も、対面での指導のほか e メールや学部や科目専用の BBS や SNS、Skype 等を用いた面接指導など、学生の状況やニーズに合わせた多様な手法が用いられるようになった。

3. 東京通信大学における通信教育

東京通信大学⁽³⁾（以下、本学）は 2018 年に開学した、メディア授業を中心とした通信制大学である。いつでもどこでも学べる「学びの機会」を開放し、現代社会で活躍できる「教養ある職業人」を育てるため設立された。社会的ニーズの高まりが予測される情報技術人材と福祉人材の育成を目指して、情報マネジメント学部と人間福祉学部の 2 つの学部を開設し、両分野における実践的な学びや、現代社会の課題を広範囲にカバーする教養科目で、知識とそれを活用する「智慧」を習得し世代を問わず生涯を通じて活躍できる優秀な人材を育てることを目的とする。

3.1 授業構成とLMS

本学の教育課程は4年間の修業年限で、4学期制、単位制の卒業要件を満たし審査の上、卒業を認められた者には学士の学位が授与される。

各授業科目は1単位を45時間以上の学修を必要とする内容で構成されている。1授業回を8回受講し、単位認定試験を受験し、総合的に合格点を取るにより1単位が認定される。授業出席や試験の受験に際して、なりすまし防止を図るため、顔認証システムを導入している。授業は一部科目のスクーリングによる演習・実習を除き、動画配信を中心として行う「メディア授業」で構成されている。メディア授業の1授業回は、約15分の映像教材を4講受講した後に、小テストを受験することを基本とする。科目によっては小テスト以外に、演習課題のレポート、ディスカッションへの参加等が課せられる。

本学の学生が学修を進めるために必要な手続き等はオンラインキャンパス「@CAMPUS」を通じて行われる。またそこからアクセスするオンライン学習支援システム「@ROOM」がメディア授業受講の場となる。@ROOMは履修中の授業を受講するLMS(Learning Management System)と、日々の学修状況や活動、履修登録や成績管理、単位修得状況などを確認できるeポートフォリオの2つの機能で構成されている。@ROOMはPCのWebブラウザのほか、専用アプリをインストールすることでスマートフォンなどのモバイル端末での受講も可能である。

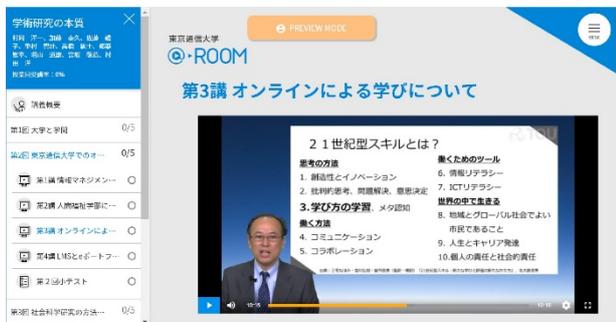


図1 @ROOMでの映像教材の一例(PC)



図2 @ROOMで単位認定試験の一例(PC)

3.2 初年度第1学期の学生の動向

開学初年度となる平成30年度は両学部合わせて800名強、科目等履修生・特修生等と合わせると1000名を超える学生が入学した。

本学では卒業までの道筋を想定・理解しやすいように、履修モデルを設け、4学期制を取っているが、いずれも1年次1学期では8~12単位の履修を推奨しており、また1年間の履修登録上限(キャップ(CAP)制)は46単位、1学期毎の履修登録できる科目もシステム上15単位の制限している。結果1学期では9科目履修者が最も多く全体の17.6%、次いで10科目が17.5%となり、平均は9.4標準偏差は0.68であった。なお15科目履修者は全体の2.1%であった。

国家試験の受験資格取得に直結する科目となる「相談援助演習I」と「精神保健福祉援助演習I」の人間福祉学部の履修者は合わせて296名であった。

1学期の単位認定試験の受験状況について述べる。本学での単位認定試験の受験資格は「全授業回の2/3の出席」である。1学期開講の43科目における正科生の延べ受講者数8,147名に対し受験資格者数は5,948名で68.7%、必修科目である「学術研究の本質」の受験資格者の比率は79.8%であった。履修登録した全ての科目において単位認定試験まで進んだ学生は全体で499名で、全学生の57.5%、全く単位認定試験まで到達しなかった学生は145名、16.7%であった。なお予稿提出の時点では、単位認定試験の得点及び科目の成績評価は確定していない。

4. 課題と展望

大学通信教育は、ICTの教育的な利活用によって、大人数の学習者を対象に、多様かつ個々の要望に応じた教育が可能となった。開学したばかりの本学の学生の学習意欲は高く、また多くの学生が目標を立てて履修計画を遂行していることは、1学期の動向からも推察できる。学生の学習意欲の維持し卒業まで導くため、指導や相談の体制を充実し、オンラインキャンパス「@CAMPUS」とオンライン学習支援システム「@ROOM」の機能を改修して、教員の授業準備や学生の学修活動の支援に柔軟に対応していくことが、今後の課題となる。本学の取組が今後増加する可能性があるオンライン学習環境での学習支援に関する知見の一部となることを期待する。

参考文献

- (1) 京都大学: “高等教育機関等におけるICTの利活用に関する調査研究”, http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1347642.htm, p1 (2013)
- (2) 公益財団法人私立大学通信教育協会: “大学通信教育とは”, <http://www.uce.or.jp/about/> (2018)
- (3) 東京通信大学: “東京通信大学 - 人生に新しい大学を”, <https://www.internet.ac.jp/> (2018)